

指定校番号	31002	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	北川 千幸	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『委員会のいじめ防止の取組』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・表現力」	3	「主体性」	2	「自己有用感」	1

**取組のねらい**

委員会活動で、「いじめ問題」について児童が主体的に考え、全校に「いじめ防止」を呼びかけることにより、自己有用感を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『主体性・自己有用感の向上』
<p>●5月・12月・2月を全校で「いじめ防止」に取り組む月間として生活目標に設定。</p> <p>5月・2月「友だちを大切にしよう」 12月「いじめをなくそう」</p> <p>●主な取組を生活委員会(5月)・児童委員会(12月)・放送委員会(2月)に委ね、児童朝会等、全校に呼びかける機会を設定。 【例：12/3 児童委員会による「いじめ防止」の呼びかけ】 (体育館でのステージ発表)</p> <p>(1)いじめにつながる2つの場面を劇にして、みんなならどうしますか?と問いかけた。</p> <p>①友達から他の友達の悪口を聞いた時 ②遊びに誘われたが、最初に遊ぶ約束をした他の友達から一緒にダメと言われた時</p> <p>(2)「死ぬ」「ばか」などのギザギザ言葉を自分が言われたらどんな気持ちになりますか?と投げかけた。→全校児童で唱和</p> <p>(3)最後に、次のことを呼びかけた。</p> <p>①学校教育目標の「しっかり考える」「思いやる」「やりきる」ことができれば良い方法が見つかること。 ②困った時は、友達や家族、先生などに相談すればよいこと。</p> <p>●発表をした委員会児童を称賛し、生徒指導便りで取組を紹介し保護者にも啓発。</p>	<p>・5月・12月は、廿日市市での取組と合わせている。(5/8「命の大切さについて考える日」、12月「廿日市市いじめ防止対策推進月間」)</p> <p>・できるだけ多くの児童に、「いじめ防止」の取組を主体的に考える機会をつくる。</p> <p>・発表内容(みんなに考えてもらいたいこと)や発表形式(ステージ、放送)など、児童の意見や思いを尊重し、成功に向け職員が支援する。</p>   <p>・朝会を見た児童の感想や発表した児童の感想も掲載。</p>

**取組の成果と課題**

- 委員会では、積極的に意見を出すなど、児童の主体的な活動の場面が多く見られた。いじめ問題について児童自ら真剣に考え、達成感をもつことができた。
- 全員、児童朝会に真剣に参加し、中には自己を振り返り、その後、実際に友達に謝っている児童もいた。
- 他の取組とも合わせ、児童の自己有用感が高まった。(1学期89%→2学期末91%)
- 児童の主体的な活動を推進するには時間を要する。業務改善も念頭においた取組の工夫が必要である。